

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ヒトツナ東小金井教室		
○保護者評価実施期間	2025年 6月 2日		2025年 6月 11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2025年 6月 1日		2025年 6月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 6月 12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間は、清潔で心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている。初めてご利用の児童でも、入室に抵抗や緊張がないように、視覚的に落ち着いた空間作りを意識している。	毎日清掃や消毒を行い清潔感を重んじている。家具・備品・掲示物は刺激の少ない色調や絵柄を選んでいる。	引き続き児童が心地よく過ごせるような環境整備に取り組んでゆく。
2	児童のことを十分に理解し、特性に応じた専門性のある支援が提供できている。	児童の発達や特性、心理的な課題について専門的・客観的な分析を行えるよう、内部研修・外部講師を招いた研修・外部のオンライン研修を積極的に活用し、社員教育を十分に設けている。	引き続き児童を理解するために研修を継続し、職員のスキルアップに努める。
3	児童・保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成されている。	支援計画を作成する際は、児発管だけでなく、全職員とモニタリングを行い、必要に応じて専門職の助言を得て、複数の視点から児童の姿を捉えられるようにしている。	引き続き児童・保護者をより理解するため、研修を継続し、場合により対人コミュニケーションやビジネスマナーの研修も取り入れる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の児童と触れ合う機会。	地域と交流する機会について、積極的な情報収集が不足している。時間や環境の問題で、地域と交流するプログラムの構築を積極的に発案できなかった。	市の相談支援機関や学校・園など、情報共有の機会を増やし、地域での交流を増やせる取組みを行い、地域に開かれた事業所を目指す。
2	父母会や勉強会など、主活動以外でご利用者との交流が不十分である。	開業年度につき、教室の安定稼働を重視したため、主活動以外の企画は立案していたが実行できていなかった。	令和7年度は、保護者を招いた講習会や懇親会を企画し、定期的な開催を予定している。
3	児童や保護者からの相談や申し入れについて、受入れ体制の整備と周知の徹底。	主に児発管(兼管理者)が担当し、契約時にも説明を行っているが、負担が大きい。	事業所内にて複数の職員で分業し、一職員の負担を軽減し、相談にきめ細やかな対応ができるような体制をつくる。